

主な災害時の現地指導等

1 平成24年7月九州北部豪雨による国道57号の法面崩落現地調査

平成24年7月11日から14日にかけて九州北部で発生した大雨により、国道57号の熊本県阿蘇市一の宮町坂梨地区において11箇所の法面崩落等が発生し、全面通行止めとなった。道路研究部では、九州地方整備局の派遣要請を受け、最も大きな被害が発生した法面崩落現場の被災状況調査を行った。被災した法面における湧水の状況、損傷したロープ掛け工に絡む浮き石の状況等について確認を行うとともに、当該通行止め箇所の暫定解除に向けた方策等について技術的な支援を行った。

道路研究部 道路構造物管理システム研究官 水谷 和彦

2 鹿児島県肝付町における土砂災害の現地指導

2012年6月27日から28日の梅雨前線豪雨によって鹿児島県肝付町の山地部で多数の崩壊・土石流が発生したことにより家屋被害が生じるとともに、交通途絶や一部集落の孤立が発生した。砂防研究室では、鹿児島県からの災害調査の派遣要請を受け、6月30日に肝付町周辺においてヘリ調査および現地踏査を行い、国道448号の道路通行規制と警戒避難体制や応急対策等について、鹿児島県、肝付町等に技術的助言を行った。

危機管理技術研究センター 砂防研究室 研究官 野村 康裕

3 大分県由布市湯布院町における土石流災害の現地指導

梅雨前線豪雨により2012年7月1日夕刻、大分県由布市湯布院町の大分川水系岳本川において土石流が発生し、家屋被害が生じるとともに、下流の温泉街において土砂洪水氾濫が生じた。砂防研究室では大分県からの要請を受け、7月5・6日にヘリ調査および現地踏査を行い、土石流の発生機構、既設砂防堰堤の効果、今後の警戒避難対策、既設砂防堰堤の除石を含む砂防施設の整備等について、大分県及び由布市に技術的助言を行った。

危機管理技術研究センター 砂防研究室長 岡本 敦

4 近畿豪雨災害における土砂災害の現地指導

2012年8月13日から14日の滋賀・京都南部地方での集中豪雨により、大津市、宇治市およびその周辺の山地部では多数の崩壊・土石流、洪水等が発生し、人的被害や家屋被害に加え一部集落が孤立するなど大きな被害が生じた。砂防研究室では、滋賀県、近畿地方整備局等からの災害調査の派遣要請を受け、8月16日から17日にかけて、大津市、宇治市における土石流発生現場等の踏査を行い、警戒避難体制や応急対策等について、滋賀県、宇治市等に技術的助言を行った。

危機管理技術研究センター 砂防研究室 研究官 野村 康裕

5 愛媛県西条市における土砂災害の現地指導

2012年9月4日に愛媛県西条市の加茂川水系東之谷川左岸斜面にて崩壊が発生し、土砂が河道を閉塞するとともに市道東之川東西線の橋梁が被災した。砂防研究室では、災害調査の要請を受けて現地踏査および技術指導を行った。崩壊斜面および河道閉塞の状況を踏査により確認し、今後の拡大崩壊の可能性等について検討するとともに、斜面の状況および河道の水位等について継続的な監視が必要であること、斜面对策、道路・河道の復旧を総合的に判断して今後の方針を決定する必要があることなどについて助言を行った。

危機管理技術研究センター 砂防研究室 研究官 奥山 悠木

※ その他の主な災害時の現地指導等

「2012年5月6日に茨城県つくば市で発生した竜巻による建築物等の被害について」 → P. 54に掲載

「九州北部豪雨災害における土砂災害に対する技術支援」 → P. 55に掲載